

新しい生活様式の中での柔道！模索中！

☆ 平 柔 通 信 ☆

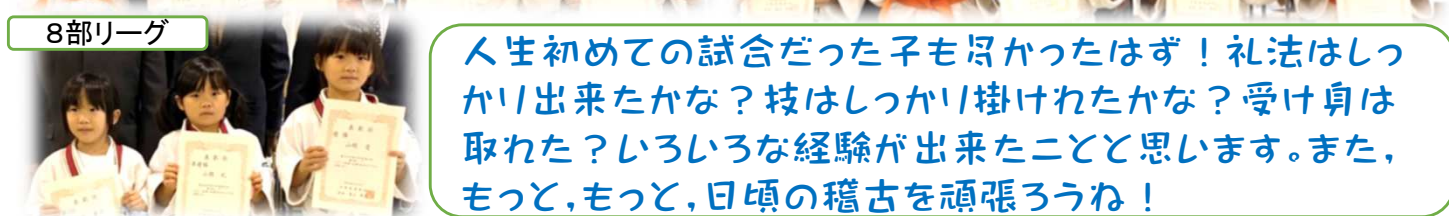
平塚柔道協会発行
 責任者 会長 奥山晴治

2年振りに平塚少年柔道大会を開催！試合は楽しいね！

コロナの影響で昨年は実施できなかった平塚少年柔道大会。本年も当初予定日から延期されましたが、規模を大幅に縮小して11月23日(火:祝)開催することができました。「試合は楽しい。」子供達からは、そんな声が聞こえてきました。来年は他道場を招待して通常開催できるといいですね。平柔もまた一歩前進しました。



最強決定戦		1部リーグ		2部リーグ		3部リーグ		4部リーグ	
優勝	原田(竜)	優勝	真田(総)	優勝	馬場(栞)	優勝	佐々木	優勝	三浦
準優勝	柴田	準優勝	上水	準優勝	米村	準優勝	佐藤	準優勝	菅
		第3位	馬場(薫)	第3位	大倉	第3位	宮田	第3位	稲毛
		優良賞	原田(雄)					優良賞	片山
5部リーグ		6部リーグ		7部リーグ		8部リーグ			
優勝	益田	優勝	真田(野)	優勝	土屋	優勝	山縣(愛)		
準優勝	林田	準優勝	諸山	準優勝	林田	準優勝	山縣(礼)		
第3位	片山	第3位	片山	第3位	松村(亨)	第3位	馬場(薫)		
優良賞	松村(志)	優良賞	馬場(桜)・武尾	優良賞	高畑・三浦				



人生初めての試合だった子も居ったはず！礼法はしっかり出来たかな？技はしっかり掛けれたかな？受け身は取れた？いろいろな経験が出来たことと思います。また、もっと、もっと、日頃の稽古を頑張ろうね！

今月の目標・

足技使ってる？足技↓得意技への連絡を意識しよう！

原田君の挑戦！全国日整少年柔道大会へ県代表として出場

11月21日(日),東京春日の講道館において,2年ぶりに日整全国大会が開催されました。神奈川県代表として,原田(竜)君が出場しました。順調に勝ち上がり,準々決勝では本大会優勝チームの兵庫県と対戦しましたが,惜敗,しかし柔道激战区神奈川県代表の意地を見せました。ベスト8は立派です。今後もさらに上を目指して頑張ろう!



★ コロナ感染は落ち着いていますが,手指消毒など引き続きコロナ感染防止対策を徹底願います。

(12月の予定) 火曜日・土曜日 18:30から 年内最終25日(土)

(雑感) ~名誉と尊厳~ 11月14日(日),全日本学生優勝大会が開催され,男子は決勝で東海大が筑波大を5-0で下し,5大会連続25度目の優勝を果たした(女子も東海大が優勝,2連覇)。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で大会史上初の中止となり,2年ぶりの開催であった。3位には日体大,国士舘大が入った。

東海大は準決勝の日体大戦で,残り2人で1-3と絶体絶命のピンチになったものの,そこから副将と大将が連続して勝ち,内容勝ちで逆転し決勝での優勝につなげた。コロナの影響で十分な練習を行えなくなったとのこと。きっと今大会は東海大にとって未曾有の経験となったはず,そんな中でも勝ち切る東海大の強さはどこから来るのだろうか。改めてその強さには敬意を表す。翌日の記事によると,監督は今大会を東海大の「**名誉と尊厳を懸けた戦い**」と位置づけたそうである。部内でのコロナ発生等により失われた名誉を回復できたことと思う。しかし,そもそもその時期は,全国どこで発生してもおかしくない感染状況であり,そんな中で,最も感染の危険性が高い対人密接競技の一つである「柔道」で感染が確認されても「やむを得ない」と思うところであるが,これをしっかりと受け止めてきた監督の責任感と部員の意識の高さには頭が下がる思いである。当協会も,そのような高い意識を持って,引き続き「柔道」と向かい合っていきたい。

また,これと別に,前全日本男子柔道監督の井上康生氏の述べた言葉も心に残った。

「これまで監督をやってきた中でも改めて思いましたし,一人の柔道家として選手時代から思ってきたことでもあるんですけど,我々の究極の目標は「勝ってメダルを取ること」ではない。メダルはミッションの一つで,競技や人生で培ったものをどう社会に生かすのか。本当の目標はそこだと思っています。」

正に柔道の創設者である嘉納治五郎が掲げた「**精力善用 自他共栄**」の考えである。

勝負を大切にすることとともに,柔道の精神を改めて認識していきたいと感じた11月であった。(五)

